資料１

PRIMAFF

Policy Research Institute, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

農林水産政策研究所シンポジウム

イノベーションでつながる、ひろがる、変わる農業
日本とオランダ、そして世界の動き

本シンポジウムのねらい

農林水産政策研究所

浅井　真康

1983年生まれ。専門はシステム農学・農業環境政策。近年は農業イノベーションシステムの観点から循環型農業・経済の実践に向けた研究に取り組む。オランダで修士号、デンマークで博士号を取得。2014年より農林水産政策研究所勤務。

はじめに

- 多様な聴講者
  - 農業者
  - 民間企業
  - 大学研究機関
  - 行政機関（地方・国）
- 日本～世界

- 近年の農業を取り巻く大きな変化
  - 人口減少と高齢化
  - 大規模・法人経営の増加
  - 気候変動への対応
  - ICT、IoT、AI・・・スマート農業の台頭

イノベーションとは？

- 清水洋著『野生化するイノベーション』によれば･･･
「<u>経済的な価値</u>を生み出す<u>新しいモノゴト</u>」
  - 必ずしも技術革新＝イノベーションではない

- そのインパクトは「じわじわ」くる
  - 制度の整備や補完的な技術の開発が必要
  - 普及システムや人材育成の重要性

- ただし、イノベーションとは目指すものではなく、あくまで課題解決の結果
  - イノベーション≠目標

イノベーションでつながる、ひろがる、変わる農業

- 農業分野の課題解決に向けて、
  多様な主体が「つながる」ことで
  新しい知識・技術を生み出し、
  それを「ひろげて」いくことが大切

- そのためには、どのような研究の実施、知見の蓄積、そして政策が必要？？

本シンポジウムのねらい

先進事例・先進国で得られた知見を共有。

課題の発見と解決に向けた議論・考察。

農林水産政策研究所とイノベーションの研究

農林水産政策研究所HP「刊行物」
https://www.maff.go.jp/primaff/kanko/index.html

現行のプロジェクト研究「ICTや先端技術を活用した農村活性化、地域資源・環境の保全に関する研究」（令和元～3年度）

バイオマス・循環経済に向けた研究

- 林・浅井（2019）『持続的な地域資源の活用システムの構築―持続可能なバイオエネルギー利用のために―』（プロジェクト研究資料）

ICT等を活用した農村活性化に関する研究

これまでの成果物

組織連携と人材育成

- 農林水産政策研究所シンポジウム「農村におけるイノベーションを担う人材とその育成 －EU・韓国・日本の動き－」
- 井上ら（2014）『農村イノベーションのための人材と組織の育成：海外と日本の動き』（プロジェクト研究資料）

海外事例

- EUの普及システム
  - 浅井（2015、2016）「デンマークの最先端農業と普及システム」「フィンランドの普及システム」『農林水産政策研究レビュー』
- EUの研究イノベーション枠組計画「ホライズン 2020」
  - 飯田（2019）「農業における生産性と持続可能性のための欧州革新パートナーシップ（EIP-Agri）」『ドイツにおける農村振興政策―持続可能な農村振興にむけた施策―』（カントリーレポート）

OECDへの協力

- OECD（2019）Innovation, Agricultural Productivity and Sustainability in Japan, OECD Food and Agricultural Reviews.（主にChapter 5 Agricultural innovation systems in Japan のオリジナル原稿を執筆）『OECD 政策レビュー・日本農業のイノベーション～生産性と持続可能性の向上をめざして～』（和訳本）大成出版社.

報告１
農業イノベーションシステム（AIS）からのアプローチ　（ローレンス・クラークス氏）

- AIS：課題解決に向けて「つながる、ひろがる」を理解するためのシステムアプローチ
- 農業4.0とAIS
- 連携に向けたイノベーションブローカーの役割
- オランダを含む農業先進国の取組紹介

【略歴】
1977年生まれ。ワーゲニンゲン大学（オランダ）知識・技術・イノベーショングループ教授。社会学の視点から農業イノベーションにおける官民連携や普及組織の役割、農業のデジタル化について研究。EUや豪・NZ、アフリカや南米における各国の事例を調査。国際機関や欧州委員会等での講演多数。

報告２
OECDから見た日本の農業イノベーション
（木村伸吾氏）

- イノベーション：生産性と持続可能性の向上に向けた鍵
- 他加盟国との比較、課題の発見、政策提言
- 日本の取組を世界に発信

【略歴】
1974年生まれ。アジア開発銀行（ADB）上級自然資源・農業専門家。博士（開発経済学）。1997年、農林水産省に入省、2007年よりOECD貿易・農業局の農業政策アナリスト。2019年11月からADBに出向中。OECD政策レビュー「日本の農業イノベーション」に加えて、中国や韓国での同分析も担当。

報告３
オランダ農業とイノベーション
（エバート　ヤン・クライエンブリンク氏）

- 農業先進国：オランダ
- なぜオランダ農業では活発にイノベーションが起こるのか？
  - 革新技術が受け入れられる仕組みづくりとは？
  - 最近の政策的支援の動向

【略歴】
1972年生まれ。在京オランダ王国大使館・農務参事官。博士（農業経済学）。2005年よりオランダ経済省および農業・自然・食品品質省にて勤務。農業技術革新部門の国際農務・食品産業担当調整官、東ヨーロッパ農務政策担当上席顧問を歴任。在ウクライナ オランダ王国大使館（キエフ）勤務等を経て、2016年に来日、現職。

報告４
農業者主導のイノベーション
（横田修一氏）

- 大規模水田経営におけるICT活用
- 現場だからこそ見えてくる課題
  - イノベーションのタネ
- 喫緊の課題：気候変動への対応

【略歴】
1976年生まれ。1998年、茨城大学農学部卒業後、有限会社横田農場に就職。2008年、代表取締役に就任。急激に規模拡大する水田経営の農機1セット・作期分散モデルを確立し、2013年、農林水産祭にて天皇杯受賞。大学・研究機関・企業と連携し、農業者自らが必要とする技術を自ら開発し普及する理念の農匠ナビ株式会社に参画し、2018年に代表取締役就任。

報告５
農業のデジタル化と行政の役割

（國井大輔）

- 農業のデジタル化とは？
  - その移行過程を支える行政の役割の整理
- 農林水産政策研究所での研究
  - 農地データ整備を通じた新しい可能性
  - ICT等を活用した農村振興

【略歴】
1979年生まれ。東北大学大学院農学研究科で博士号取得後、同大学でのポスドク、仏ブルゴーニュ大学での客員研究員を経て、2012年より現職（2016-2017年に農林水産省出向）。専門はGISやリモートセンシングによる土地利用やバイオマスの分析。農村振興や環境をテーマにした研究に従事。

パネルディスカッション＋質疑応答

「つながる」
- 異業種間連携の促進
- 共通課題としての「気候変動への対応」

「ひろがる」
- 利用者ニーズにあった技術開発
- 制度やルールの整備
- 普及システム

「変わる」
- 革新的な技術が農業・農村にもたらす影響
- 人材育成

質疑応答について

- 各報告者または全体への質問は、Sli.do（スライド）か、質問用紙を通じて行ってください。
- いただいた質問については、パネルディスカッションの後半部で扱います。

- Sli.do（スライド）
  - 使い方については、配布資料内の別紙をご参照ください。
  - シンポジウムの間、いつでも質問を投稿できます。
  - みなさんからの質問を共有して見ることができます。

- 質問用紙
  - 配布資料内に質問用紙が入っています。
  - 休憩時間中（15時～15時15分）は受付付近の回収箱へ。
  - パネルディスカッション前あるいはパネルディスカッション中は、挙手をして、回収箱を持った係員に渡してください。